

先進地への視察・研修



● 活動のきっかけ

東日本大震災は、その被害の甚大さ、広域さから未曾有の災害と言われますが、その復興にあたっては、過去の被災地の経験が大変参考になりました。

私たちは活動開始当初、新潟県中越地域や北海道奥尻町、阪神地域等への視察研修を重ね、過去の被災地の経験から多くのことを学びました。その知見をそのまま南三陸に持ち帰るのではなく、今の南三陸の状況にあわせて伝えていくにはどうしたらよいのか、私たちがなりに咀嚼を繰り返しながら活動を展開してきました。

また、私たちと同じような活動を、宮城県内の他の地域で実践されていた皆さんとの情報交換の場も定期的に持つようにしました。地域の状況は大きく異なりましたが、コミュニティの再生という同じ目標に向かう者どうし、学びあうことが多くありました。

● 活動内容

① 先進地視察研修 (2011年度～2013年度)

● 新潟県中越地域への視察 (2011年10月23日～25日)

発足直後の研修で、中越地域を訪れました。「川口ぎずな館」の展示から、地震の約3ヶ月後には住民が「復興寺子屋」を開催していたことを知り、このことが、その後の私たちの「復興てらこ屋」の活動につながっていきました。



土石流に埋もれた家屋をそのまま保存した遺構の見学 (山古志 木籠地区)



震災後の地域の取組状況を記録した年表 (川口ぎずな館)



中越での支援活動のお話を伺う (長岡震災アーカイブセンター)

● 北海道奥尻島への視察 (2012年10月2日～5日)

南三陸町内で、防潮堤整備への関心が高まった時期の視察でした。津波からの復興事業の一環で、最大約11mの高さの防潮堤を整備した奥尻島を訪問し、関係者からの聞き取りや、復興した地域の視察を行いました。



住民の方からお話を伺う



防潮堤の高さを実感

● 九州視察 (有明海荒尾干潟～雲仙普賢岳～湯平小学校) (2013年11月5日～7日)

被災元地の整備計画づくりにあたって、干潟を活かし自然と共生した復興のあり方や、災害遺構の保存といったことに関心が高かった時期の視察でした。椿のまちづくり活動を支援いただいていた小学校にも訪問し、交流を深めました。



日本最大の「荒尾干潟」の視察



火砕流で被災した小学校 (震災遺構)



湯平小学校を訪問し「つなみのかみしばい」を上演

② 地域間の情報交換 (2011年度～2014年度)



これからの活動について考える合同研修 2012.3.15 仙台市内



他地域の復興状況視察・ヒアリング 2015.2.20 女川町内



復興まちづくり推進員 活動報告・交流会 2015.3.16 仙台市内

● 活動の成果・発展

これらの視察・研修で学んだことは、月に1～2回のペースで開催している復興みなさん会の「例会」の場で情報共有し、次の活動へとつなげていくようにしました。現在までに、この例会は150回を数えています。

例会での内部研修の様子 2016.5.28 上山八幡宮



いただいた助成金・補助金等

- ちば元気ファンド 東日本大震災市民活動支援助成金「南三陸町絆再生コミュニティ復興支援事業」(2011～2012年度)
- 公益財団法人トヨタ財団 2012年度国内助成(冬助成) 東日本大震災対応「特定課題」助成金「南三陸町町民主体の復興に向けたまちづくり支援事業」(2012～2013年度)
- 宮城県 震災復興担い手NPO等支援事業補助金「復興公営住宅や高台移転団地等新しいコミュニティ形成に向けた町民活動支援事業」(2014年度)
- ジャパン・ソサエティ東日本大震災復興基金(ローズファンド) 助成金「南三陸椿ものがたり 子どももお年寄りも一緒に復興まちづくり」(2014～2015年度)
- 公立大学法人宮城大学地域連携センター地域復興事業部「コミュニティ復興支援員設置実証業務」(2011年度)、「宮城大学災害対応支援事業」(2012～2013年度)

ご支援いただきありがとうございました。